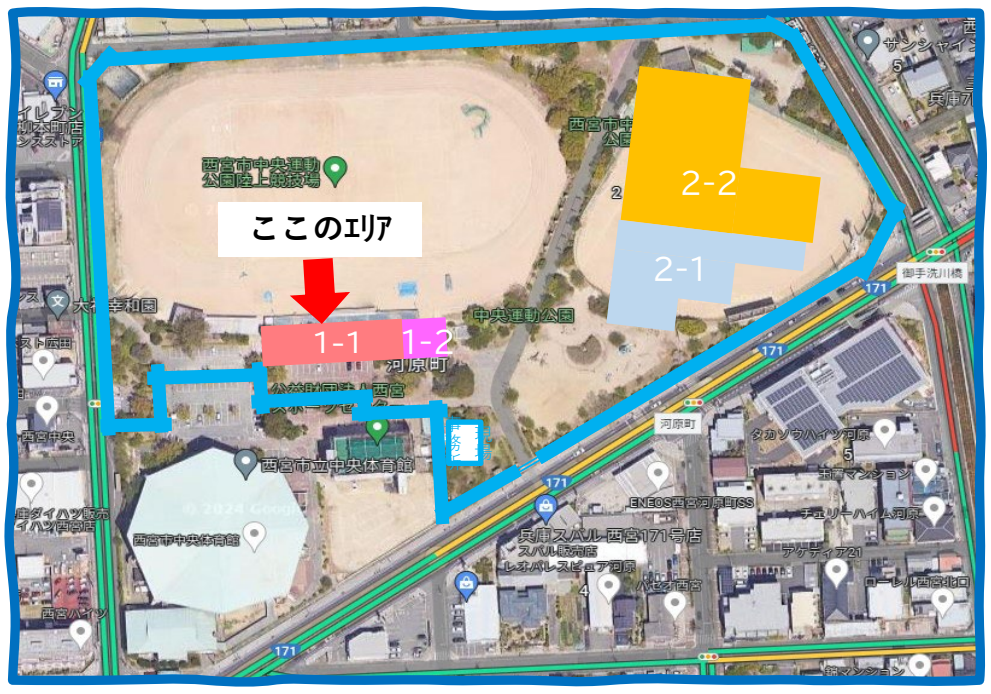
現地説明会を開催しました

2/21(土)発掘調査の現地説明会を開催しました！

遺構・古代流路・出土遺物をご覧いただき、

多くの方にご参加いただきました。

ありがとうございました！



当日の様子が神戸新聞に掲載されました(2/25付)

神戸新聞

（第3種郵便物認可）

古代の西宮に思いはせ

市民向け説明会　遺構や食器など出土

西宮市の西宮中央運動公園（河原町）で埋蔵文化財の発掘調査を行っている市は21日、市民ら向けに現地説明会を開いた。鎌倉時代を中心とした多数の遺構や、さらに古い時代の土器などが見つかっており、学芸員が調査の成果を紹介。訪れた約千人は、遺構を眺めたり、土器を撮影したりして、古代の人々の暮らしに思いをはせた。（潮海陽香）

再整備中の中央運動公園で発掘調査

同公園には陸上競技場や体育館、テニスコートなどがある。老朽化による再整備に伴い、発掘調査を行ったところ、多数の遺構や遺物が見つかった。上ケ原台地の南に広がる沖積平野に位置しており、県が指定する広田遺跡の一部とみられるという。

今回は、陸上競技場の建設予定地を公開し、学芸員が成果を説明した。それによると、調査地の西側に全体の約3分の1の範囲に見つかった地層から、人為的に掘られた穴や溝、流路などの遺構を多数確認したという。川の跡では須恵器なども見つかり、鎌倉から室町時代にかけて、人々が活動していた場所だったと推測される。

さらに、調査地全体の地層からは、土坑や井戸などの遺構のほか、約370基の遺構が判明したという。

地表面から地下約2・8メートルの地層では、西側に大きな流路を発見。そこでは底が打ち砕かれた土器や、上下逆さまの状態の土器が見つかり、儀礼的な行為がなされていたと考えられるという。

説明会の場所では、土器などの遺物が並べて展示され、市民らは写真を撮影したり、配られた資料と見比べたりしていた。市内から訪れた前田喜稔さん(78)は「人の暮らしの歴史を感じる。きっと昔から西宮は住みよい場所だったんだろう」と思いを巡らせていた。

発掘調査で見つかった土器などに見入る参加者

西宮中央運動公園で見つかった遺構について学芸員の説明に耳を傾ける多くの市民ら＝いずれも西宮市河原町

清水建設・松田組特定建設工事共同企業体

西宮中央運動公園及び中央体育館・陸上競技場等再整備事業

令和８(2026)年２月21日(土)

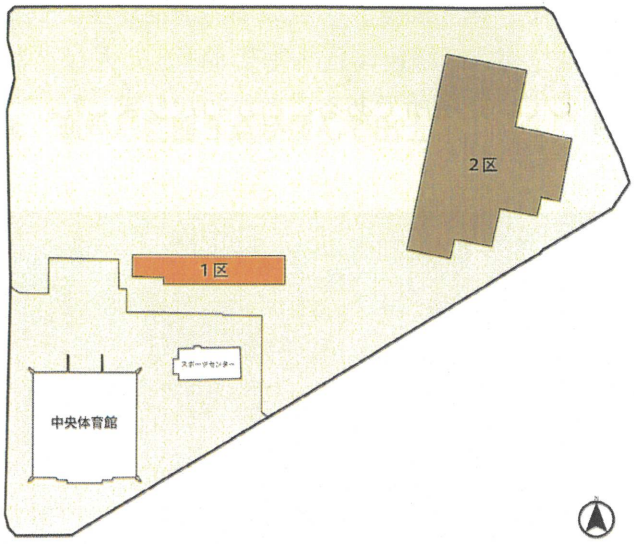
広田遺跡 No. ３地点 第２次調査

現地説明会資料

はじめに

西宮市では、西宮市中央運動公園再整備事業に伴い、令和７（2025）年９月から令和９年６月末（予定）の期間で、広田(ひろた)遺跡 No.3 地点の発掘調査を行っています。

発掘調査は、陸上競技場建設予定地を１区、体育館建設予定地を２区とした２つの調査区に分けて行っており、今回は、中世（鎌倉時代～室町時代）を中心とした多数の遺構や古代（奈良時代）の流路が見つかった１区の調査成果について公開します。１区ではこれまでに、３つの調査面（第１～３面）の調査を行っています。



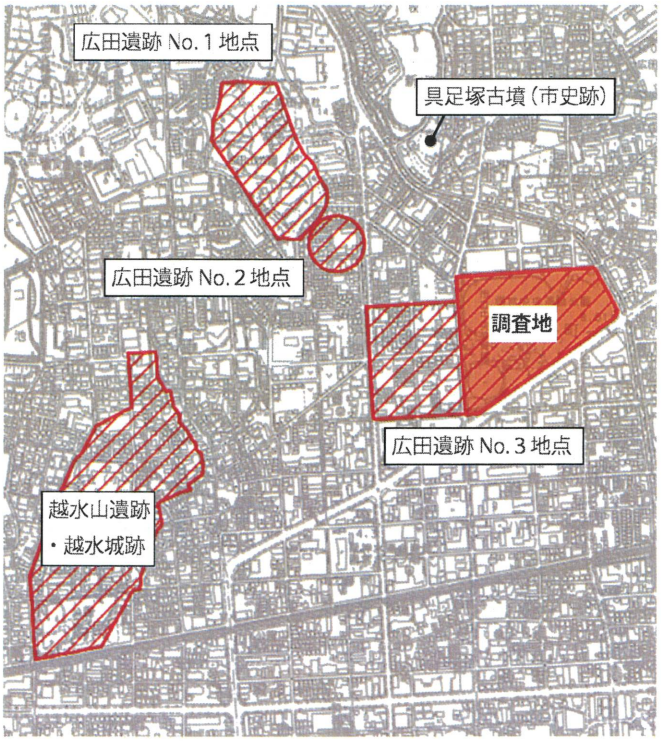
▲　調査区模式図

広田遺跡 No.3 地点と周辺の遺跡

広田遺跡 No.3 地点は、廣田(ひろた)神社から国道 171 号の範囲にかけて広がる広田遺跡の一部です。広田遺跡は、北から南に向かい No.1 から No.3 の地点に分けられ、本遺跡は最も南に位置する地点になります。

広田遺跡は、上ヶ原台地の南方に広がる沖積平野に位置しており、本遺跡の北側に位置する上ヶ原台地の先端部には、６世紀後半に築造された地域首長墓と考えられる具足塚(ぐそくづか)古墳（市史跡）があります。また、本遺跡の西側に位置する台地上には、弥生～古墳時代の集落遺跡である越水山(こしみずやま)遺跡があります。さらに、この台地上には中世城館である越水城(こしみずじょう)があったと推定されています。

本遺跡の南を走る国道 171 号は、古代山陽道（西国街道）との関係が指摘されており、広田遺跡周辺は交通の要衝であったと考えられています。



▲　広田遺跡 No.3 地点と周辺の遺跡

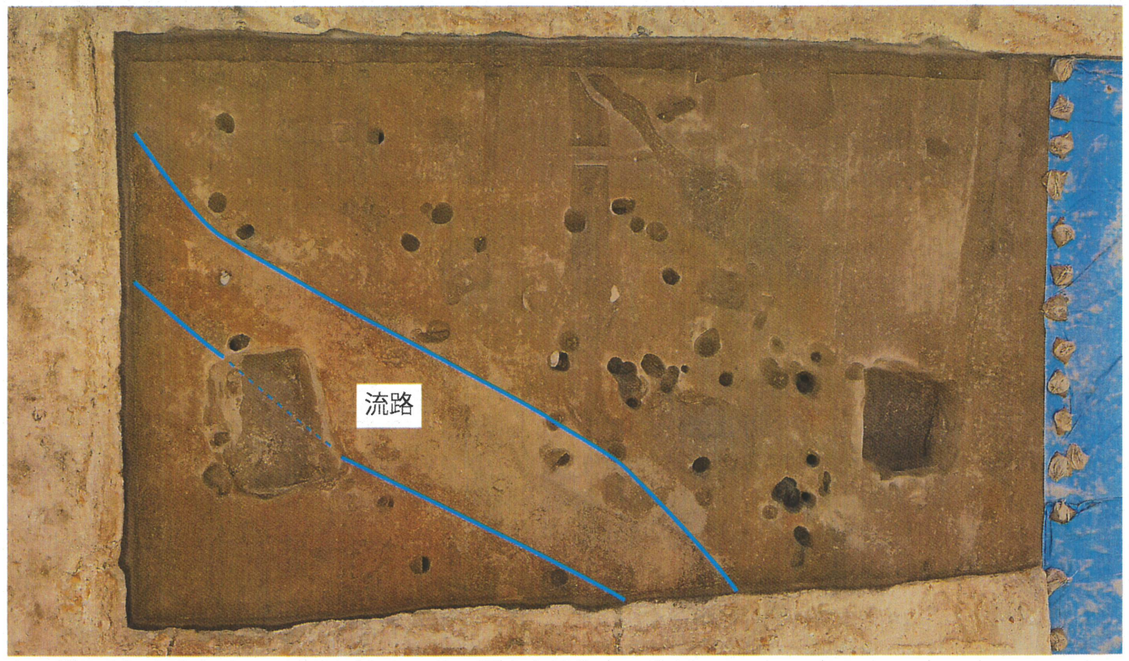
作成：西宮市文化財課　　発行：株式会社文化財サービス

第１面　　中世（鎌倉～室町時代）の遺構を発見

第１面は、調査区の西側に全体の約１/３の範囲で見つかりました。残りの東側約２/３の範囲については、現代に至るまでの土地利用の過程で削られてしまい、失われていました。

第１面では、土坑（どこう）（人が掘った穴）、柱穴、溝、流路などの遺構を約 110 基確認しました。遺物には土師質（はじしつ）土器や瓦器（がき）があります。これらの成果から、第１面は、中世以前の流路が埋まったあとに、中世（鎌倉時代～室町時代）の人びとが活動していた場所であることがわかりました。

▲　流路から出土した古墳時代の土器（須恵器・提瓶）



▲　第１面調査完了時のようす（真上から。写真上が北、下が南）

▲　土器の出土状況

▲　土器の出土状況

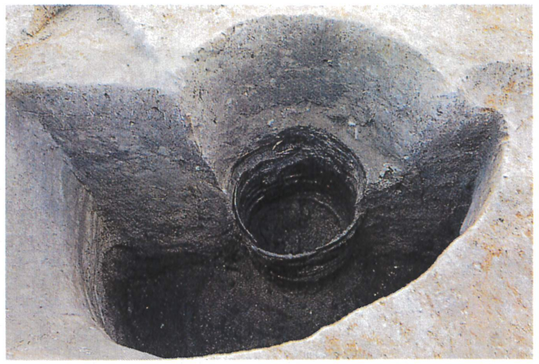
第２面　　中世（鎌倉時代）の建物跡や井戸を発見

第２面は、調査区の全面で見つかりました。土坑、柱穴（掘立柱建物跡）、溝、井戸などの遺構を約 370 基確認し、土師皿や瓦器、土製羽釜などの鎌倉時代を中心とした遺物が出土しています。

掘立柱建物跡や井戸の存在から、鎌倉時代において、この場所が人びとの生活の場であったことが明らかになりました。

▲　溝から瓦器３点が並んで出土

▲　第２面調査完了時のようす（真上から。写真上が北、下が南）



▲　井戸１は曲物の桶を積み上げて井戸枠にしていました。井戸２のような石敷きはありませんでした。

▲　井戸２は上面に石を敷いていました。井戸枠は井戸１と同様に曲物の桶を積み上げていました。

第３面　　古代（奈良時代）の流路を発見

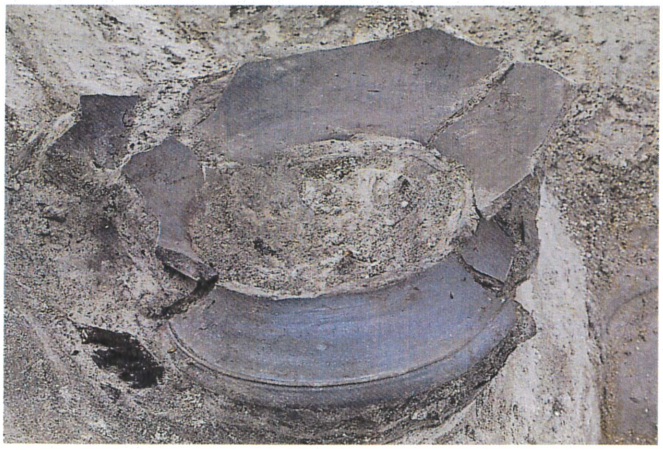
第３面では、流路・土坑などの遺構を確認しました。

注目されるのは、調査区の西側で見つかった流路で、奈良時代を中心とした遺物が多数みつかっています。

流路からは、土器の底部を意図的に打ち欠いたものや、上下逆さまにして安置したような状態の土器などが見つかっており、儀礼行為が行われていた可能性が考えられます。

▲　底部を打ち欠いた土器

▲　古代（奈良時代）の流路（北から）



▲　須恵器・甕（口縁～肩部）。上下逆さまの状態で出土。

▲　土師器・長胴甕。上下逆さまの状態で出土。